

うか……。

瑞々しい感受性で事件の本質を鋭く見抜いている子が大勢いると思います。半面、やはりまだ自分とは無縁の世界の出来事と感じている子も多いでしょう。

しかし、いずれにしても子どもたちには、決して加害者にならないために、奇しくも加害者という立場になってしまった人間の内面に巣くう憎悪や偏見、暴力的衝動などの感情を他人事と考えずに、程度の差こそあれ誰の心にもある、このような反社会的な「影」の感情を、ぜひとも制御できる人であってほしいと切に願っています。

日本の義務教育における道徳教育の「国際化」に関する願いは、「世界の中心の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立つて、世界の平和と人類の幸福に寄与すること。」にあります。ところが、「自国ファースト」という言葉が象徴するように、自国の経済的な利益が第一で、「世界の平和」と「人類の幸福」は二の次、三の次という国が増え、世界の一部の国々は、日本の道徳教育の願いと全く違う方向に向かっていていると思われまます。

自分が生まれ、育った国を愛し、大切にする「愛国心」は、ごく自然の感情ですが、このような素朴な「愛国心」とは異質

な、「自分の国は他の国々よりも優れており、特別だ。」という自国最優先の論理で、他の国を軽んずる国が増加しているような気がしてならないのです。



この直き心の国・日本こそ、「自国ファースト」の潮流に巻き込まれることなく、道徳教育の願いを具現化し、世界中の国々の共存共栄のために、その舵取りを率先して、毅然と担うべき国ではないでしょうか……。日本にはその力も資格も権利も、そして、義務もあるのではないのでしょうか……。

しかしながら実際は、地球が亜熱帯化し、日本だけではなく世界各地で、10月の台風19号のような観測史上最大級の自然災害が起こっているにもかかわらず、

「地球温暖化は嘘つばちで、でっち上げだ。」「究極の選択肢は戦争だ。」と言い放つ某大国のリーダーに付き従っています。

あくまでも私見ですが、唯一の戦争被爆国である日本は、当然、「核兵器禁止条約」をいっせいに批准するものと考えていました。日本は、核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず、という「非核三原則」を掲げている国であるからです。しかし、かの大国政府が「『激しい嫌悪感を露骨に示す表現』を用い、日本の交渉参加への反対を表明した。」(信濃毎日新聞平成29年3月16日)ことによつて今もなお、「核兵器廃絶への第一歩となる条約」に名を連ねていないのです。

その直接的な影響の経緯については教育相談員には到底分かりませんが、因果応報が巡り巡つて、今、日本の動向と小・中学校の道徳教育の指導内容との間に甚だしい言行不一致が生じています。我が身の非は省みず、利害を分ける国(や主義主張の異なる相手)を一方向的に非難しながら、その口舌で児童・生徒に、「他国を尊重し、世界の平和と人類の幸福に寄与せよ。」と説いているのです。

このような日本を、そして、大人の姿を、子どもたちはどのように見つめているのでしょうか……。子どもたちの心の中にも

ある「影」と絡み合い、その「影」が肥大化しないことを願うばかりです。

日本には、「日本のここは本当に凄い！ 素晴らしい！」という「光」の面と、前述のような「影」の面が併存しています。しかし、「光」が「影」を壊滅しようとしても、実効は乏しいでしょう。

なぜなら、人間は有史以来、ずうっと「光と影」を併せ持ち、快拳と愚拳を繰り返してきた何とも厄介な存在であるからです。したがって、これからも人間は数々の愚行と失敗を重ねながら生き続けていくことでしょう。

しかし、後世に取り返しのない禍根を残さぬために、大人も子どもも誰もが、人間は「光と影」を併せ持つていること……、せめて、この一点だけは常に自覚していただきたいのです。

。。。挿絵について。。。

今春の「広報たてしな4月」から、かつて立科中学校に勤務された田中好文先生(現佐久市立野沢中学校長)より、子どもたちの「光と影」を描いて精緻で、清爽な挿絵をお寄せいただいております。遅くなりましたが、ご紹介申し上げます。ここに深甚なる感謝の意を表します。

佳いお年を……。